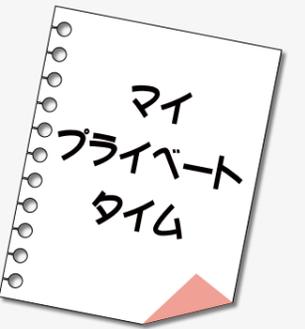


大好きな自然探訪

みずこし いさお
木更津市長(千葉県) 水越勇雄
Isao Mizukoshi

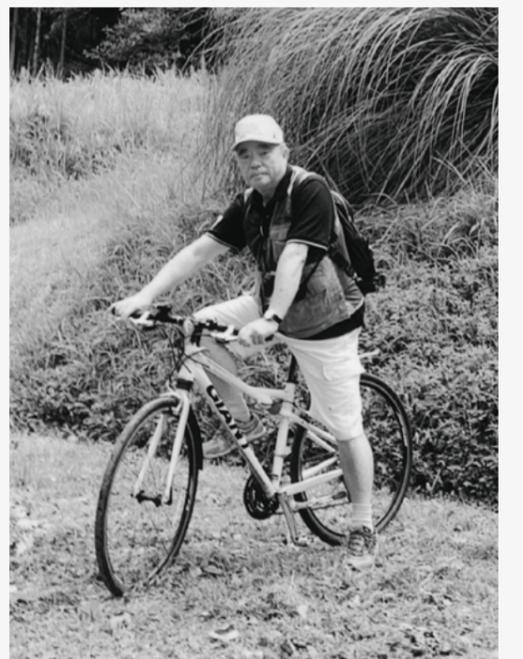


木更津市の紹介

木更津市は房総半島千葉県のほぼ中央西部、東京湾岸に位置しており、古くから「みなとまち」として栄えてきました。平成9年に本市と神奈川県川崎市とを結ぶ東京湾横断道路(東京湾アクアライン)が開通し、館山自動車道・首都圏中央連絡自動車道といった広域幹線道路網と一体となり、東京や横浜の都心に車で1時間、羽田空港へは30分でアクセスできる、交通の利便性に優れた地域となりました。

昨年市制施行70周年

を迎えた本市では、折りしも昨年の4月以降、東京湾アクアラインの接岸地、金田地区にかねてから整備を進めていた新市街地かずさアクアシティのまちびらきとともに「三井アウトレットパーク木更津」を始めとする大型商業施設が相次いで



サイクリング出発時の筆者

開業し、今では大変な状況を呈しております。このような状況で背景に、本市においては、交流人口が増加するとともに、定住人口についても、一昨年11月に初めて13万人を超え、現在も増加傾向が続いております。

新しい発見が尽きない自然探訪

私の実家はもと農漁家で、自然を身近に感じて育ったせいか、私は、以前より自然探訪や旅行が好きです。学生のころから好きなカメラを持って、尾瀬沼や蓼科高原などを探訪し、高山植物のカラー 슬라이ド作りをしていました。就職してから時間も時間があ



来年第2回開催が決定している「ちばアクアラインマラソン」

と、新しい発見が尽きず、飽きずにぐるぐると回ってしまいます。わが街も含め近隣の街も自然が豊かですので、興味のある看板や美しい景色などを見つけると、自転車をちよつと置いて歩いてみます。写真に収めてみたり。居場所がわからなくなっても、今は携帯電話などがありますので便利になりました。旅行先での自然探訪も楽しいですが、こつこつと近くを見て歩くことも楽しいものです。健康にもいいので、これからも続けていきたいと思っています。

変わりゆく郷土を撮りたい

自然探訪で忘れてはならないものが

カメラ。これは私のもう一つの趣味です。高校生のころ、クラブ活動で高山植物の観察に行ったのですが、高山植物は自然保護のため採集は禁止されています。そこで写真に収めて、スライドを作成し図鑑のようなものを作っていました。現在も自宅周辺の野に咲く四季の草花や、サイクリングをしている時に見つけた野草などを写しています。庭の雑草さえ四季折々に変化していきますから、サイクリングで素朴な草花を見つけるとわくわくしますね。

また、風景を撮ることも好きです。昨年、市制施行70周年記念事業として「写真で見る木更津」という写真展を市内21カ

から住んでいる人には懐かしく、移り住んできた人には新鮮に感じてもらえたところで、大変好評でした。街並みは日々変わっていきますが、こんな風景があったと残すことも大切だと思っています。

住んで楽しいまちを目指して

「地域づくり」「まちづくり」、その主体は住民です。ですから、住民、市民にとって「自分たちのまちは住んで楽しく、魅力あるまちだ」と感じてもらえるような木更津にしたいと思っています。本市は交通便利性に優れ、自然も豊かで、雪も降らず温暖で気候にも恵まれた住みやすいまちと自負しています。しかし、それだけでは住みたいと思ってもらうことはできません。ですから、木更津の良いところは磨き続けるとともに、「住んだら楽しそうだし」と思ってもらえる、魅力的なまちづくりをしていく必要があると思います。そして、暮らしていくためには働き口が必要で、努力次第で親よりも豊かになれるという希望を持てる環境を整え、多くの若い人達が生まれ育ったこのまちでこれからも生きていきたい、生活していきたい、そう思えるまちを目指して一心に取り組んでいます。これからは各行政分野のバランスを考慮しつつ、将来の豊かさへの期待が持てるまちづくりに努力して行きたいと思っています。



筆者と市のマスコットキャラクター「きさぽん」

所で開催しました。木更津駅の今と昔や、地元最大のイベントである「木更津港まつり」で開催される「やっさいもっさい踊り」など、木更津市の思い出や発展過程を写真で展示したものです。私は変わりゆく郷土を撮っておきたい。これらの写真を残し、これからは木更津に住み続けていく若い人たちに伝えたいと思っています。市内各地の通りの風景なども集めたこの企画は、昔